

# 木之本小学校からの報告

## 「みずすまし」水生生物調査結果表

調 査 場 所 名 ( No. )		意富布良神社南側 No.1	北部振興局東側 No.2	木之本町黒田地区北側 No.3										
月	日	5月28日	6月18日	6月25日										
時	刻	15時10分	15時15分	15時15分										
天	気	晴れ	晴れ	曇り										
水	温 ( °C )	23.0 °C	24.2 °C	26.0 °C										
気	温 ( °C )	27.0 °C	26.8 °C	23.3 °C										
川	幅 ( m )	1.5 m	2.2 m	1.2 m										
河	川 名	用水路(赤川支流)	用水路	水路(余呉川支流)										
生 物 を 採 取 し た 場 所		川の右岸	川の中央	川の左岸										
水	深 ( cm )	20.0 cm	30.0 cm	20.0 cm										
流	速 ( cm / s )	50.0 cm/s	120.0 cm/s	40.0 cm/s										
水 の よう す	指 標 生 物													
I きれい	1	カワゲラ類												
	2	ナガレトビケラ・ヤマトビケラ クロツツビケラ類												
	3	ヒラタケロウ類	○											
	4	ブユ類												
	5	ヘビトンボ類												
	6	カガンボ類												
	7	サワガニ	●	○										
I・II 共通	8	ウスムシ類												
	9	2以外のトビケラ類												
	10	3、14以外のカゲロウ類		○										
II 少しよごれている	11	ヒラ外ロムシ類												
	12	シジミ類	○											
II・III 共通	13	カワナ	●	○										
III よごれている	14	サホコカゲロウ												
	15	ヒル類												
	16	ミスムシ	○	●										
	17	モノアラガイ												
III・IV 共通	18	サカマキガイ		●										
IV 大変よごれている	19	赤いユスリカ												
	20	イトミス類	○	○										
	21	ハナアブ類												
水 質 判 定 表	水のような区分		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
	1	みつかった指標生物の 種類の計 (○+●)	2	1	2	1	2	3	2	2	2	1	1	
	2	みつかった指標生物のうち 一番数の多くあった種類(●)	1	1	1			2	1		1	1		
	合 計 (1欄+2欄)		3	2	3	1	2	5	3	2	3	2	1	
	判定結果(合計が最も大きい区分)		I				III				II			

## 調査考察、活動内容等

木之本小学校の「みずすまし」(理科クラブ)は、4年生3名、5年生3名、6年生3名の計9名の隊員で構成されています。



本校は、田上山麓の斜面に位置し、学校の周辺にはゆるやかに流れる河川は少ないです。唯一、田上山の谷間から流れ出る細い川(赤川の支流)があるだけです。その支流は、本校から徒歩で5分ほどのところ、伊香高校の校門のすぐ前を流れていて、これまでも調査している地点です。しかしここ数年天候の影響か、この川は水流がほとんどなく河川調査ができる状況でないため、以前からの調査をしている学校近くの意富布良神社前を流れる用水路(赤川の支流)を調査することにしました。

また、例年との比較を考察するため、北部地域振興局東側の水路と、学校から自転車で10分ほどの黒田集落内の川も調査地点とし、今年度も計3つの地点について調査しました。

また、例年との比較を考察するため、北部地域振興局東側の水路と、学校から自転車で10分ほどの黒田集落内の川も調査地点とし、今年度も計3つの地点について調査しました。

## 子どもたちの考えた予想

3つの調査地点の中から、子どもたちは、水質の一番きれいなところは、第1調査地点である「神社前」ではないか、という予想を立てました。田上山のすぐ横を流れ、水源に近いため、汚れも少ないと考えたようでした。

また、余呉川の水を取り入れている黒田集落内の川もきれいではないかと考えました。比較的大きな余呉川は中流ではあるが、山々に囲まれ、人口も少ない地域の川なので、水はきれいではないかということでした。

北部振興局の東側は、住宅地の中を流れるので、少し汚れていると予想しました。

**第1回調査** 5月28日(月) 15:10~15:40

**調査場所** 意富布良神社前を流れる用水路(赤川の支流)



この川は意富布良神社の南側地点を東西に流れる用水路(赤川の支流)で、今年度の調査地点は、川幅約1.5m、水深は約15~25cm程度の小さな川です。両側がコンクリートで固められており、天候によっては渇水状況となります。調査日には水流が見られ、水温23.0℃でした。川に様々な指標生物を見つけることができました。結果として、水質階級Iのサワガニを一番

多く観察することができ、調査した水生生物の半数以上を占めました。水の様子や水質は「きれいである」と言えるが、一方でカワニナやミズムシ、イトミミズも見られました。昨年とほとんど変わりませんでした。

(4年・女兒)

この川には、サワガニがたくさんいて良かったです。ここの水はきれいだなと思いました。でも、イトミミズもいたし、においもあったので、きれいに見えるけどきたない所もあるんだなと思いました。

**第2回調査**     6月18日(月) 15:15~15:50  
**調査場所**     北部地域振興局の東を流れる用水路

この川は北部地域振興局の東側、JR沿線にあります。例年、継続して観察している地点です。昨年、意富布良神社前の水が、JR下を超えて、流れてきていることが判明しました。川幅は2.2~2.5mほどで両側はコンクリートで固められています。上から見ると、すし空き缶や菓子の袋などゴミが目立ち、川に入ると川底は砂というよりは泥が堆積していて、水草も生えていました。水深は所によって深くなったり、浅くなったりと一定ではありませんでした。流れはやや速く、ザリガニや



魚が見られました。前回の意富布良神社前の調査地点に比べると水質は良くないように感じられました。

調査をしてみると、多く見つかったのはミズムシやサカマキガイで、やや水質が悪いと感じました。住宅街を流れる川なので、家庭の排水が流れ込むため、やや汚れているのではないかと思います。

(5年・男児)

水草がぎっしりで、ザリガニや小魚がいてびっくりした。こんな川に魚がいるとは驚いた。サワガニ、カワナ、モンカゲロウ、ザリガニが見つかった。植田先生に教えてもらい、名前がよく分かった。

**第3回調査**     6月25日(月) 15:20~15:55  
**調査場所**     黒田地先余呉川支流



この川は黒田地区の北部にあり、余呉川から水田に引き込んでいる人工の水路です。ブロックや石垣で作られたその川は、幅120cm、水深は30~40cmほどで、ゆるやかに水が流れています。周辺整備された水路にはドジョウやザリガニなどがたくさん生息し、地域の方が自然と気軽にふれあえるスポットになっています。

数日前、本校2年生が生活科の学習で「生き物探検」をし、そこで水生生物採取を行なったため、今回の指標生物は少なかったです。見た目は



透明できれいに感じましたが、少しよごれている指標生物であるカワニナが一番多く見つかりました。また、よごれている水の生物指標は今年度見つけることができませんでした。過去の調査と同様の結果で、水源としている余呉川自体に生活排水が流れ込んでいることと、数日前に2年生が調査のため水生生物採取したので、指標生物が発見できなかったと考えられます。

(5年・女兒)

黒田の川には、初めて来ました。川の両側がきれいになっているので、観察しやすかったです。水がきれいな所にいる生物ときたない所にいる生物がいたので、目で見ただけではわからないなと思いました。ちょっと、葉っぱや枝がたくさんあって、びっくりしました。

## 調査を終えて

子どもたちは、川の中にはいろいろな生物がすんでいて、それぞれに名前があることにびっくりしていたようです。また、水生生物の調査を継続してすることにより川の水質の変化や前後の天候によって影響されることが分かり、興味を持って取り組んでいました。見た目ではきれいな川に思えても、実際はそうではないことが分かり、水生生物調査の意義を実感していたようです。



今後は調査の結果を踏まえて、子どもたちが環境にもっと関心を持ち、自分たちにできるような取組はどんなものかを考えさせていきたいです。また、理科クラブだけの取組から各学年・全校への取組に広がるよう、ポスターや調査結果などを掲示し働きかけていければと考えています。水質の観点から言えば、同地点の継続観察をし、水環境の変化に目を向けさせることも大切な学習であると感じました。

